日清製粉 グループ 本社

循環成長推進で環境保全 長期ビジョン実現へ



▲容器包装の廃棄少量化にも注力

長期ビジョン「NNI "Compass for the Future"」 で掲げている持続可能な「循環成長」を推進し、 地球環境保全に取り組んでいる。同社ではこのほ ど、環境課題に関する中長期目標を設定するとと もに、TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォー ス)提言への賛同と、TCFD コンソーシアムへ の参加を表明した。同社ではこれまで5つの「CSR 重要課題」の中で、「食品廃棄物・容器包装廃棄 物への対応」と「気候変動及び水問題への対応」 を中長期的に取り組むべき環境課題と特定し、環 境負荷軽減に努めてきた。今回、新たに「気候変 動」「食品廃棄物」「容器包装廃棄物」「水資源」 の4つの課題に対する数値目標の設定・見直しを 行う。それぞれの中長期目標は「CO₂排出量削減」 で、2030 年度にグループの自社拠点で CO₂ 排出 量 50% 削減(13年度比)を目指すほか、サプラ イチェーンにおける CO。排出量の削減に取り組 む。さらに 50 年にはグループの自社拠点で CO₂ 排出量を実質ゼロにするなどの目標を掲げてい る。主な取り組みは①さらなる省エネ活動の推進 ②再生可能エネルギーの活用(太陽光発電設備の 積極的な導入など) ③ボイラーなど化石燃料使用 設備の電化、ゼロカーボン燃料への切り替え④排 出量取引などのカーボンプライシング制度の活用 ⑤サプライチェーンにおける CO。排出量の測定、 協力会社などとの連携。

「食品廃棄物削減」では、30年度に原料調達から納品までの工程で食品廃棄物の50%以上を削減(16年度比。一部のグループ企業は19年度比)

と、サプライチェーン各段階の取引先とともに食品廃棄物削減に取り組む。具体的には①生産工程でのロス削減、製品の破袋・破損の削減②賞味期限延長による廃棄物削減、賞味期限表示変更による返品削減③マテリアルリサイクル(飼料、肥料、発酵、再使用など)への転用④フードバンクの活用など。

「容器包装廃棄物削減」では30年度にプラス チック使用量を25%以上削減(19年度比)する 目標に加え、プラスチック資源の循環を促進する ほか、容器包装へのバイオマスプラスチック、再 生プラスチック、再生紙、FSC 認証紙などの持 続可能な包装資材の使用を推進する。上記の取り 組みは、品質保持の観点から、安全・安心を前提 として進める。具体的には①3R+リニューアブ ルの推進②分別が容易かつマテリアルリサイク ル・ケミカルリサイクルが可能な容器包装設計な ど。3R の改善事例には「日清 クッキング フラ ワー」や「日清 水溶きいらずのとろみ上手」で、 詰め替えボトル採用により容器に使うプラスチッ ク原料を減らし、廃棄の少量化を図るほか、一部 の冷凍食品で紙トレー採用や外包材削減などを実 施している。「水使用量削減 | では40年度に工場 の水使用量原単位 30% 削減を目指す(21 年度比)。 地域ごとに将来の水の供給リスクに応じた目標を 設定し、特にリスクが高い地域では水使用量の半 減を目標としている。具体的には①節水設備や IoT 導入による水の効果的利用②排水の再生利用 による工場内での水循環など。